

令和6年度 第1回 金沢シビックテック推進協議会

日時：令和6年7月12日(金) 14:00～15:30

場所：金沢市役所第一本庁舎 7階 第4委員会室

次 第

1 開 会

2 審議事項

議案第1号 令和5年度事業報告について

議案第2号 令和5年度決算（案）について

議案第3号 令和6年度事業計画（案）について

議案第4号 令和6年度予算（案）について

3 報 告

報告第1号 シビックテックミーティングカナザワの開催について

報告第2号 地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」の運用について

報告第3号 地域コミュニティにおけるICT活用について

4 閉 会

金沢シビックテック推進協議会 委員名簿

(50音順、敬称略)

区分	氏名	役職	備考
委員	相羽 大輔	金沢市 PTA 協議会 会長	
委員	小俣 博司	オープン川崎 代表	
委員	茂 知一	一般社団法人石川県情報システム工業会 理事	
委員	福島 健一郎	一般社団法人コード・フォー・カナザワ 代表理事	
委員	松井 くにお	金沢工業大学工学部情報工学科 教授	
委員	眞鍋 知子	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授	
委員	矢後 智子	NP0 法人ネットワークアシストたかおか 副理事長	
委員	山口 いづみ	NP0 法人あかりプロジェクト 代表理事	
監事	平田 善雄	金沢市会計課長	

金沢シビックテック推進協議会規約

（目的）

第1条 シビックテックの推進を図ることで、金沢市において、市民や行政のニーズに即した地域課題の解決につながるアプリケーションやサービスが提供されるようになることを目的とする。

（業務）

第2条 金沢シビックテック推進協議会（以下「協議会」という。）は、次の業務を行う。

- (1) シビックテックの活動推進
- (2) シビックテックの人材育成事業
- (3) その他、前条の目的を達成するために必要な業務

（役員）

第3条 協議会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 協議会に監事を置き、金沢市会計課長をもって充てる。

3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（役員の職務）

第4条 会長は、会務を統括し、協議会を代表する。

2 会長に事故があるときには、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

3 監事は、協議会の会計を監査する。

（協議会）

第5条 協議会は、毎年会長が必要に応じて開催し、会長が議長となる。

2 協議会は、次に掲げる事項について決議する。

- (1) 規約の制定及び改正に関する事項
- (2) 事業計画及び予算の決定に関する事項
- (3) 事業報告及び決算の認定に関する事項
- (4) その他重要事項

（事務局）

第6条 協議会は、金沢市市民局市民協働推進課内に事務局を置き、協議会の庶務を処理する。

（収支）

第7条 協議会の収入は、金沢市からの委託料及びその他の収入をもって充てる。

（会計期間等）

第8条 協議会の会計期間は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

2 協議会の会計に関し必要な事項は、会長が別に定める。

（雑則）

第9条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この規約は、令和2年4月1日から施行する。

この規約は、令和3年4月1日から施行する。

この規約は、令和4年4月1日から施行する。

令和5年度 金沢シビックテック推進協議会 事業報告

【報告事項】

1. 地域課題解決プロジェクト事業
2. シビックテックスクール開催事業
3. データを活用した地域課題解決推進事業
4. 情報発信事業

1 地域課題解決プロジェクト事業

市民等が具体的な地域課題（お困りごと）を地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」に投稿し、課題投稿者と解決に取り組んでみたい方が「マッチ箱」に解決アイデア等を投稿し、解決に向けたディスカッションを行った。

（１） 地域課題（お困りごと）募集

- ・ 募集期間：随時
- ・ 募集内容：生活している地域の課題や、日頃感じている困りごとなど、具体的な地域課題を「マッチ箱」に投稿
- ・ 投稿数　：18件（令和5年9月1日（金）～令和6年1月31日（水））

（２） ICTを活用した解決アイデアの企画募集

- ・ 募集期間：【第1期】令和5年9月 1日（金） ～ 10月31日（火）
【第2期】令和5年11月1日（水） ～ 令和6年1月31日（水）
- ・ 募集内容：ICTを活用した解決アイデアの企画
- ・ 応募数　：投稿された地域課題の解決に向け、プロジェクトチームが1件結成されたが、
能登半島地震の影響により、プロジェクトが一旦停止となった。
最終的な企画の応募は0件であったが、次年度に向けて引き続き解決に向けた取り組みを支援していく。

（３） 募集期間中に投稿された主な課題

主な課題	主な回答	プロジェクトチーム結成
「よりそうなかま」冊子の場所を見える化	不登校等支援団体情報の一覧化、マッピング	結成 ※地震の影響により中止
コイン精米所がある場所をまとめたい	正確な設置場所が公開されればマッピング可能	—
学校連絡のペーパーレス化、アプリ活用	活用している学校もある、学校指導課を紹介	—
町会役員間の情報共有ツール	LINE Works、BAND、Discordを紹介	—

2 シビックテックスクール開催事業

将来のシビックテックの担い手育成を目的に、アプリケーション開発、地域課題解決に興味を持つ学生や社会人等を対象に、IT 技術者の指導を受けながら、ノーコードツールを用いたアプリケーションの開発や、Google が提供している各種ツールについて講義・演習を行った。

(1) ノーコードアプリ開発講座

- ・受講対象：シビックテックやアプリケーション開発、地域課題解決に興味がある方（16 歳以上、金沢市内に在住又は通勤通学）
- ・受講人数：11 名
- ・講師：雄谷 峰志 氏、佐々木 修吾 氏（一般社団法人コード・フォー・カナザワ）

日程	日時・場所	内容
第1回	9月23日（土・祝）14:00～17:00 金沢未来のまち創造館	①シビックテックとは（講義） ②ノーコードツールとは（講義） ③ノーコードツールの演習
第2回	10月21日（土）14:00～17:00 金沢未来のまち創造館	④ノーコードツールの演習



(2) Google ツール活用講座

- ・受講対象：シビックテックやアプリケーション開発、地域課題解決に興味がある方（16 歳以上、金沢市内に在住又は通勤通学）
- ・受講人数：9 名
- ・講師：雄谷 峰志 氏、佐々木 修吾 氏（一般社団法人コード・フォー・カナザワ）

日程	日時・場所	内容
第 1 回	9 月 30 日（土）13:00～16:00 長土堀青少年交流センター	①シビックテックとは（講義） ②Google ツールの演習 Google ドライブ、Google サイトなど
第 2 回	10 月 28 日（土）14:00～17:00 金沢未来のまち創造館	③Google ツールの演習 Google フォーム、Google マップなど



(3) 主な意見・感想

- ・ PC が苦手で敬遠していたが分かりやすく教えていただけて何とか指示通りに作れて自信になった。
- ・ 簡単にアプリを作れるツールを教えてもらえて、活用できる機会を作れるとよいと思う。 マッチ箱にも参加したい。
- ・ 大変勉強になった。 また機会があればぜひ参加したいと思う。
- ・ IT 技術は日々進化していくので、常に学んでいくことが大切だと思う。
このような機会があると、 いろいろな方々と会い、触発を受け、楽しく学ぶことができた。
- ・ 非常にわかりやすかった。ノーコードでできることは非常に限られるが、チームの管理やちょっとしたことを解決するためのツールとして非常に優れたものであった。私の中では 目的を達成するための手段が増えたことは非常に意味があったと感じる。

3 データを活用した地域課題解決推進事業

データの収集や活用方法など、データの基礎について学び、自らの課題解決に生かすため、市民や市民団体等向けのデータ活用講座を開催した。

「市民のためのデータ活用講座」の開催

- ・開催日時：令和6年2月3日（土）13：30～16：00
- ・開催場所：金沢未来のまち創造館
- ・受講人数：20名
- ・講座内容

第一部：データの基本について学ぼう！

【内容】データとは何か、活動にデータを活用するメリット、データの収集や分析方法等についての講演

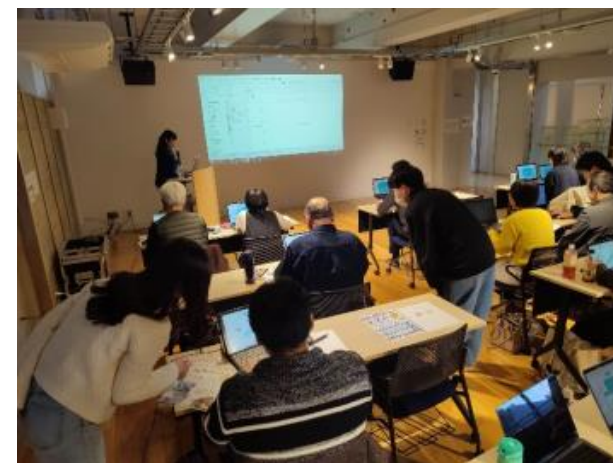
【講師】北陸大学 学長補佐・経済経営学部教授 田尻 慎太郎 氏

第二部：データの加工・分析を体験してみよう！

【内容】データ分析ツール「Tableau」を活用したデータ分析体験

【運営】株式会社セールスフォース・ジャパン Tableau 事業統括

【協力】北陸大学経済経営学部田尻ゼミ（d-lab）



第二部の体験のようす

主な意見・感想

- ・初心者にもとてもわかりやすい内容だった。講義だけでなく実践できるのが良かった。
- ・わからないところを大学生の方がフォローしてくれたのも良かった。
- ・良い講座だった。第二弾の開催を期待する。あとから参加したかったという方が数名いたので告知の方法は検討の余地ありかも。
- ・駆け足気味だったので時間を伸ばすか複数に分けても良かったと思う。

4 情報発信事業

シビックテックポータルサイト及び Facebook ページを運用し、当協議会の事業や募集について積極的に PR するとともに、企業向け PR 用デジタルパンフレットを作成し、公開・配布した。

(1) シビックテックポータルサイト

- ・ URL : <https://kanazawa-civic-tech.jp>
- ・ サイト構成
 - ①協議会事業の紹介
 - 金沢シビックテック推進協議会とは
 - 地域課題プロジェクト事業
 - データを活用した地域課題解決推進
 - シビックテックスクール
 - ②シビックテック人材バンク
 - シビックテック分野で活躍するプレイヤーの紹介及び募集
 - ③他地域事例集
 - 他の自治体等でのシビックテック活動事例や提供サービスの紹介
 - ④シビックテック関連リンク集
 - 全国の Code for 団体及び関連団体の紹介
 - オープンデータ関連サイトの紹介
 - ⑤お知らせ
 - 協議会事業等についてのお知らせを随時掲載
- ・ ページビュー数：8,051（令和5年4月1日～令和6年3月31日）
（参考：前年度）8,556（令和4年4月1日～令和5年3月31日）



ポータルサイト画面

(2) Facebook ページ

- ・フォロワー：93 名（令和 6 年 3 月 31 日時点）
- ・投稿件数：18 件（令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日）



(3) 企業向け PR 用デジタルパンフレット

IT 関係企業及び企業に勤務するエンジニア等を対象に、シビックテックの紹介や参加するメリット等を紹介することで、シビックテック活動への参加を促すデジタルパンフレットを作成。

・概要

デジタルパンフレット（PDF 形式）

A4 6 ページ（表紙・裏表紙含む）

・構成

①表紙（P1）

②シビックテックとは（P2）

③シビックテック関係者インタビュー（P3～5）

④シビックテック活動に参加するには（P6）

・公開方法

ホームページ、SNS 等で公開するとともに、

石川県情報システム工業会メールマガジンにて配布。
（令和 6 年 3 月）



令和5年度決算(案)

議案第2号

【収入】 (単位:円)

項	目	予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	備考
1 受託事業収入	委託料	2,500,000	1,397,809	△ 1,102,191	金沢市へ返納
2 その他収入	雑入		13	13	預金利子
合計		2,500,000	1,397,822	△ 1,102,178	

【支出】 (単位:円)

項	目	予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	備考
1 事業費		2,150,000	1,199,102	△ 950,898	
	①地域課題解決プロジェクト事業	758,000	132,936	△ 625,064	募集チラシ作成等 ※1
	②シビックテックスクール開催事業	650,000	621,839	△ 28,161	開催委託費等
	③データを活用した地域課題解決推進事業	350,000	61,527	△ 288,473	有識者謝礼等 ※2
	④情報発信事業	392,000	382,800	△ 9,200	パンフレット作成等
2 運営費	事務費	350,000	198,720	△ 151,280	委員謝礼等
合 計		2,500,000	1,397,822	△ 1,102,178	

※1: 地域課題解決プロジェクト事業において、能登半島地震の影響により結成されたプロジェクトチームのプロジェクトが一旦停止されたことなどにより、最終的な開発支援件数が0件となったため、開発支援金の執行がなかった。

※2: データを活用した地域課題解決推進事業において、企業による無償協力が得られたことにより、開催費が減額となった。

会計監査報告

令和5年度金沢シビックテック推進協議会の会計決算書および関係書類を監査した結果、収入、支出いずれも適正であったことを報告します。

令和 6年 4 月 26 日

監事

平田 善雄

令和6年度 金沢シビックテック推進協議会 事業計画（案）

はじめに、金沢市においては、本協議会やシビックテックに取り組む市民団体などの活動により、シビックテックの理念が少しずつ浸透してきており、具体的な課題解決につながった事例や、全国から注目される事例なども出てきている。

しかしながら、シビックテックに携わる方々の数がまだ十分とは言い難く、さらなる育成や発掘が求められているとともに、課題を持つ方々とシビックテック活動に携わる方々が交流する場や、自由に利用可能なデータの拡充及び分析手法の浸透なども必要であると考えている。今後の方向性としては、作り手の育成・発掘に向けた企業や学生などへの情報発信を強化するとともに、具体的な課題を可視化し、解決に向けた協働の場を創出することで、さらなるシビックテックへの理解と関心向上を目指したい。

令和6年度の協議会事業の執行予定は、以下のとおりである。

(1) 地域課題解決プロジェクト事業

市民等から具体的な地域課題（お困りごと）を募集・公開し、『地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」』も活用しながら、市民や団体、企業等の様々な主体が、地域課題の共有と解決に向けたディスカッションを行う。

併せて、その課題についてICTを活用して解決する作り手を募集し、解決に向けた支援を行うことで、地域課題の解決を図る。

(2) シビックテックスクールの開催

ICTを活用した地域課題解決に興味を持つ方を対象に、各種ツールを活用した課題解決に関する講座を開催することで、地域課題を自ら解決できる人材を育成する。

(3) データを活用した課題解決の推進

市民や団体等を対象に、データの収集や活用方法など、データの基礎について学ぶ講座を開催する。

(4) 情報発信等事業

シビックテックポータルサイト及びSNSを活用し、当協議会の事業や募集等について広く情報発信を行う。

また、企業及びエンジニアに向けた周知を引き続き行うとともに、学生に向けた周知を強化する。

1. 地域課題解決プロジェクト事業

市民等から具体的な地域課題（お困りごと）を募集・公開し、『地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」』も活用しながら、市民や団体、企業等の様々な主体が、地域課題の共有と解決に向けたディスカッションを行う。

併せて、その課題についてICTを活用して解決する作り手を募集し、解決に向けた支援を行うことで、地域課題の解決を図る。

（１）令和６年度の方向性

- ・昨年度の反省を踏まえ、「マッチ箱」と対面の場を併用し、課題を持つ方と解決に取り組んでみたい方が随時つながり、解決に向けて取り組むスキームとする。

（２）事業の概要

①地域課題の募集

- ・市民等から具体的な地域課題（お困りごと）を募集する。

②応募された地域課題の公開及び「マッチ箱」上でのディスカッション

- ・応募された地域課題を市のホームページ等で公開するとともに、課題応募者による「マッチ箱」への地域課題の投稿を行い、オンライン上で市民等が自由に課題に対する意見や解決アイデアを提示するなど、ディスカッションを行う。

③「作り手」の募集及びマッチングイベントの開催

- ・応募された地域課題について、ICTを活用して解決する「作り手」を募集する。
作り手には、興味がある地域課題を選択し、応募していただく。
- ・課題応募者や作り手、マッチ箱上の参加者などが、ICTを活用した解決アイデアについて対面でディスカッションを行う「マッチングイベント」を開催する。
- ・課題の解決に向けて協働を行うことが可能な場合は、課題応募者と作り手等で「解決チーム」を結成し、解決アイデアを検討する。

④プロジェクトチームの結成

- ・地域課題解決に向け、ディスカッションの参加者同士で協働が可能な場合は、「プロジェクトチーム」を結成する。

⑤解決支援

- ・プロジェクトチームで検討した解決アイデアが、ICTを活用したものの場合、本事業の支援対象とする。
- ・解決支援を希望する場合は、プロジェクトチームで解決アイデアを企画書にまとめ、事務局へ提出する。
- ・提出された企画書は、委員により、課題の解決性や継続性などの観点から審査を行い、支援の可否を決定する。
- ・支援可能となった解決アイデアに対しては、解決支援金として10万円／件を支給する。（最大5件）
- ・支援を受けたプロジェクトチームは、支援を受けてからおおむね半年間で解決アイデアを具現化する。

(3) スケジュール（予定）

- 7～8月 地域課題（お困りごと）募集
- 9～10月 作り手募集
- 11月 マッチングイベント開催
- 2月 企画審査

2. シビックテックスクールの開催

ICTを活用した地域課題解決に興味を持つ方を対象に、各種ツールを活用した課題解決に関する講座を開催することで、地域課題を自ら解決できる人材を育成する。

(1) 令和6年度の方角性

- ・これまでの「ツールの活用」ではなく、「課題の解決」を前面に打ち出し、例示された課題を、ツールを活用して解決する過程を学ぶ形式とする。

(2) 講座の概要

- ・団体等の運営に係る連絡調整や情報収集、情報管理、広報などのシチュエーションごとの課題を例示し、各種ツールを活用した解決方法をグループワーク形式で実習しながら学ぶ。
- ・対面にて、土曜または日曜日の開催とし、計3回の開催とする。
- ・定員20名程度、受講料無料（パソコン等は受講者各自で用意）

(3) スケジュール（予定）

7～8月 企画の検討・調整

9～10月 受講者募集

10～12月 講座の開催（3回）

3. データを活用した課題解決の推進

市民や団体等を対象に、データの収集や活用方法など、データの基礎について学ぶ講座を開催する。

(1) 令和6年度の方向性

令和5年度に実施した講座が好評であったことから、基本的な方向性を維持しつつ、講義だけではなく、受講者が実際に見て操作できる体験学習型の講座を目指す。

(2) 講座の概要

- ・市民や市民団体等を主な受講対象とする。
- ・対面にて、土曜日または日曜日の日中に1回開催する。
- ・定員は10～20名程度とする。
- ・データ活用についての基調講演のほか、データを活用した体験学習を実施

(3) スケジュール（予定）

- | | |
|-------|----------|
| 7～9月 | 企画の検討・調整 |
| 11～1月 | 参加者募集 |
| 2月 | 講座の開催 |

4. 情報発信等事業

シビックテックポータルサイト及びSNSを活用し、当協議会の事業や募集等について広く情報発信を行う。

また、企業及びエンジニアに向けた周知を引き続き行うとともに、学生に向けた周知を強化する。

(1) 令和6年度の方向性

- ・ SNSによる情報発信を強化するため、これまでのFacebookに加えてInstagramのアカウントを開設する。
- ・ 令和5年度に作成した企業向けPR用デジタルパンフレットを活用し、企業及びエンジニアに向けた周知を引き続き行うとともに、シビックテックに関心がありそうな学生に向けた周知を強化する。

(2) 企業及びエンジニア向け周知

- ・ 令和5年度に作成した企業及びエンジニア向けのパンフレット（右）を活用して、シビックテックへの理解や「マッチ箱」への参加を促進する。

(3) 学生向け周知

- ・ 情報工学を学ぶ大学生、ICTに興味のある高校生、「金沢IT部活」の部員や卒部生など、学生に向けた周知

(4) スケジュール（予定）

通年 ポータルサイト及びSNSページの運営
学生等に向けた周知



令和6年度予算(案)

【収入】

(単位:千円)

項目	当年度 予算額	前年度 予算額	増減 (対前年)	備考
1 受託事業収入(委託料)	2,500	2,500	0	金沢市委託料
合計	2,500	2,500	0	

【支出】

(単位:千円)

項目	当年度 予算額	前年度 予算額	増減 (対前年)	備考
1 事業費	2,150	2,150	0	
①地域課題解決プロジェクト事業	684	758	△ 74	企画審査が1回となることによる委員謝礼の減
②シビックテックスクール開催事業	650	650	0	
③データを活用した地域課題解決推進事業	350	350	0	
④情報発信等事業	466	392	74	情報発信の強化に伴う印刷費等の増
2 運営費	350	350	0	
合計	2,500	2,500	0	

シビックテックミーティングカナザワの開催について

【報告事項】

1. シビックテックミーティングカナザワ 2023 の開催（報告）
2. シビックテックミーティングカナザワ 2024 の開催（予定）

1 シビックテックミーティングカナザワ2023の開催

これまでシビックテック活動を市の内外に周知する全国大会として「シビックテックサミット」を開催してきたが、今年度より地域の市民や団体等を主な対象としたイベントにリニューアルした。シビックテックに取り組む方々や興味がある方々と、地域課題を持つ方々が実際に顔をあわせ、協働につなげるためのイベントとして開催した。

・日時：令和5年11月18日（土）13:00～17:00

・場所：金沢未来のまち創造館

・参加者：26人

・概要

（PART 1：シビックテック入門）

登壇者：雄谷 峰志 氏（一般社団法人コード・フォー・カナザワ）

シビックテックの概要説明や一般社団法人コード・フォー・カナザワの活動について紹介。

（PART 2：ChatGPTで地域課題解決）

登壇者：高木 志宗 氏（アイパブリッシング株式会社）

生成AIの歴史やプロンプト（指示）の出し方のコツなどの講義の後、「マッチ箱」に投稿された課題から一つ選択し、実際に解決アイデアを出力する工程を学んだ。

（PART 3：リアル「マッチ箱」で課題解決体験）

ファシリテーション：福島 健一郎 氏、雄谷 峰志 氏、おばた みなこ 氏（一般社団法人コード・フォー・カナザワ）

プロトタイプ作成：河西 紀明 氏、道家 陽介 氏、宮島 大樹 氏（フレンズ・オブ・フィグマ・イシカワ）

「マッチ箱」に投稿された除雪に関する課題をテーマに、参加者全員でディスカッションを行うとともに、アプリの画面イメージを作成するツール「Figma」を使用し、実際にアプリを開発するイメージを参加者全員で考えた。



PART 3の様子

2 シビックテックミーティングカナザワ2024の開催

地域の市民や団体等を主な対象とし、シビックテックに取り組む方々や興味がある方々と、地域課題を持つ方々が実際に顔をあわせ、協働につなげるためのイベントを開催する。

(1) 令和6年度の方角性

- ・令和5年度は、これまでの全国大会から、地域の市民や団体等を主な対象とし開催した。
今年度も基本的な方向性を維持しつつ、課題を持つ方々とシビックテックに取り組む方や興味がある方による協働を目指したイベントとする。

(2) イベントの概要

- ・金沢未来のまち創造館にて、土曜日の日中開催とする。
- ・内容は今後検討するが、「マッチ箱」でディスカッションが行われている地域課題について、対面での交流やメンバー募集などを行うなど、オンラインとオフラインをつなぐ場としても活用したいと考えている。

(3) スケジュール (予定)

7～10月 企画の検討・調整
10～11月 周知
11月 開催

地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」の運用について

地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」の運用について

地域課題の解決に向け、市民や団体、企業、シビックテックコミュニティ、市など、課題を持つ方々と解決に向けて一緒に取り組んでみたい方々が集い、ディスカッションを行い、解決に向けた協働を行うための「地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」」について、本格運用を開始した。

(1) 運用状況

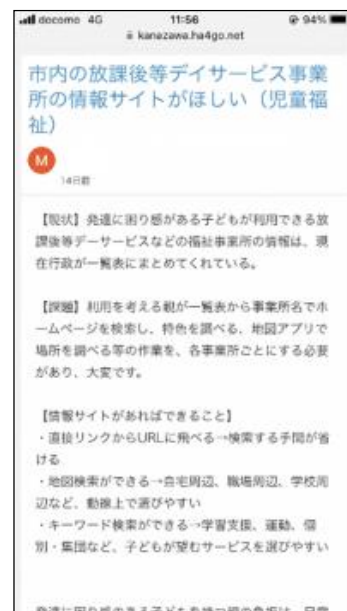
- ・ 本格運用開始日：令和 5 年 7 月 24 日
- ・ 投稿課題数： 27 件（6 月 19 日現在）
- ・ 登録者数：141 名（6 月 19 日現在）

(2) 投稿された主な課題 (議案第1号-1のほか)

- ・ いつ除雪車が家の近くの道を除雪してくれるのか気になる
- ・ 若い世代への周知方法、困りごとの解決マッチング方法
- ・ 訪問看護ステーションの見える化 等
- ・ 能登半島地震におけるシビックテックでの支援
- ・ 空き家の管理

(3) 課題解決の事例

- ・投稿された課題に対し、Google マップを活用した解決アイデア及びその手順等が参加者より投稿され、課題投稿者が自らマイマップを作成し、解決した事例が1件あった。



「マッチ箱」画面イメージ

(4) 令和6年度の方向性

- ・ 市民協働推進課に関連するイベントなど、課題を抱える市民等が集まる場やシビックテックに関するイベントなどの機会をとらえて、課題を抱える市民等と解決アイデア等を持つ市民等がつながるための交流会を年3回程度開催

(5) 交流会の開催について

- ・ 対象
地域課題を持つ市民や団体、企業等及び課題解決アイデアを持つ市民や団体、企業等 ※マッチ箱を利用していない方も対象
- ・ 内容
「マッチ箱」の機能や活用事例の紹介など
- ・ 候補イベント
シビックテックミーティング、まちづくりHUBプロジェクト、ボランティア大学校でのイベント（ボラ大フェスタ）等

(4) スケジュール（予定）

通年	マッチ箱の周知
随時	交流会の開催

地域コミュニティにおける ICT 活用について

【報告事項】

1. 市民活動 DX 推進事業
2. 地域 ICT プラットフォーム「結ネット」
3. その他（かなざわ水害ハザードマップアプリ「にげまっし」）

1. 市民活動 DX 推進事業

町会などの地域活動の業務効率化や担い手不足解消を目的としてデジタル化を推進するため作成した「地域活動デジタル活用ガイド」を教材とした「地域活動デジタル活用講座」を地域団体へ展開した。

(1) 地域活動デジタル活用ガイド

LINE や Zoom、Google ドライブ等の基本的な操作方法や、実践例としてオンライン書面決議やオンライン総会の開催方法について記載。



地域活動デジタル活用ガイド

(2) 地域活動デジタル活用講座

①全体講座

- ・対象：校下（地区）町会連合会の事務職員等 ※受講者は各町会連合会より推薦
- ・開催日時及び受講人数、内容

第1回：令和5年7月19日（水）14:00～16:00 受講人数：10名

Zoom 会議の開催やハイブリッド会議のための外付けカメラ等の活用、
SNS による情報発信 など

第2回：令和5年7月25日（火）14:00～16:00 受講人数：12名

Google フォームによるアンケート等の作成、Google ドライブによるデータの共有、
Gmail による案内 など

- ・開催場所

長土堀青少年交流センター 4階 大集会室

- ・講師

石川 きょうこ 氏（金沢市市民活動サポートセンター ICT 分野外部アドバイザー）



②個別講座

・対象：校下（地区）町会連合会または町会単位で申込

・開催実績

（新豎町地区町会連合会）

日時：令和5年11月15日（水）14：00～16：00

場所：新豎公民館 大ホール

参加：10名

概要：LINE を活用したメッセージのやりとりのほか、
複数メンバーによる LINE グループの設定や写真の共有などを体験した。

（泉野校下町会連合会）

日時：令和5年11月30日（木）9：30～11：00

場所：泉野サロン

参加：6名

概要：Google フォームを活用した情報収集やその取りまとめ方法などについて学んだ。

（内川校下町会連合会）

日時：令和6年2月5日（月）19：30～21：00

場所：内川公民館

参加：13名

概要：LINE を活用したメッセージのやりとりや LINE グループの設定のほか、
Google フォームについて紹介した。

・講師：石川 きょうこ 氏（金沢市市民活動サポートセンター ICT 分野外部アドバイザー）



新豎町地区町会連合会



泉野校下町会連合会



内川校下町会連合会

(3) 令和6年度の方向性

- ・全体講座の受講対象を広げることで、より多くの方に受講していただくことを目指す。
- ・より新しい技術に関する「ステップアップ講座」を新たに開催し、町会活動への活用を体験していただく。

(4) 令和6年度の開催案

- ・全体講座（全2回）

町会活動や地域活動に携わる方を対象に、LINEやGoogleフォーム等についての講座を開催予定。

- ・個別講座（5回程度を想定）

各校下（地区）町会連合会または単位町会を対象に、各団体が希望するテーマに沿った講座を開催する。

※内容は基本的に「地域活動デジタル活用ガイド」の範囲内とし、応募多数時は予算の範囲内で抽選する。

- ・ステップアップ講座（全1回）

各校下（地区）町会連合会から推薦された方を対象に、ChatGPTを活用した文書作成などについての講座を開催予定。

(5) スケジュール（予定）

7月 全体講座の開催（2回）

8月～3月 個別講座の開催（随時）

1月 ステップアップ講座の開催（1回）

2. 地域 ICT プラットフォーム「結ネット」

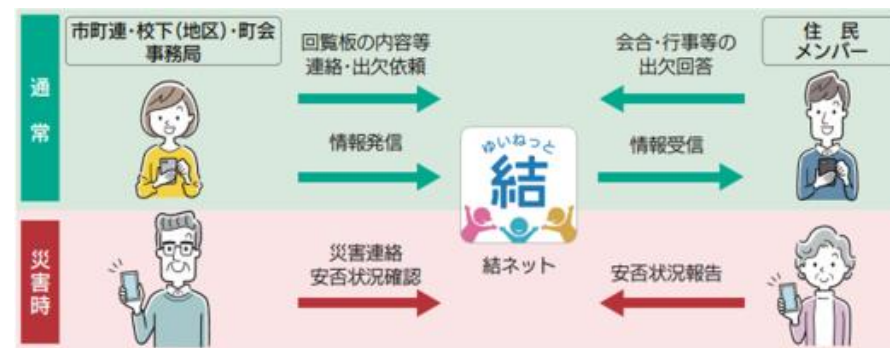
地域における情報共有と発信、町会等役員の負担軽減及び若い世代の活動への参加を促進するため、電子回覧板等アプリの導入などを支援している。



(1) 「結ネット」の機能

町会等地域団体において、通常は地域の電子回覧板や自治体・事務局等からの情報受発信ツールとして利用し、災害時には安否確認システムとして活用できるスマートフォンのアプリ。

- ・ 連絡網機能 …地域内に情報配信を行う
- ・ グループウェア機能 …行事などの出欠確認や各種調査を行う
- ・ 地域情報配信機能 …自治体などの情報配信を行う
- ・ 災害時安否確認機能 …災害時の安否確認を行う
- ・ 自動翻訳・音声再生機能 …記事内容の翻訳や読み上げを行う



(2) 「結ネット」活用に関する連携協定

令和3年4月27日、地域コミュニティの活性化及び市民の利便性向上等を図るため、「結ネット」を活用した取組に関する協定を、金沢市町会連合会・㈱シーピーユーとの三者で締結。以降、各団体が連携協力の上で活用に取り組んでいる。



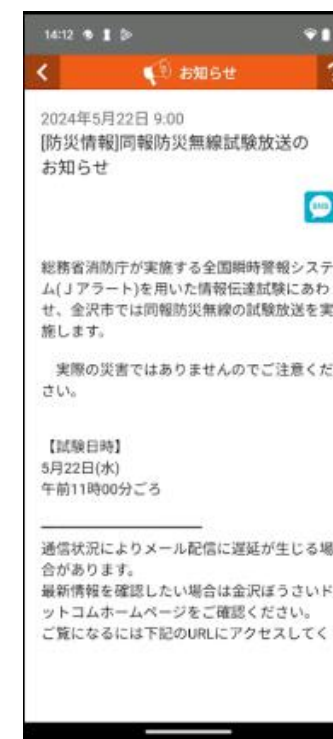
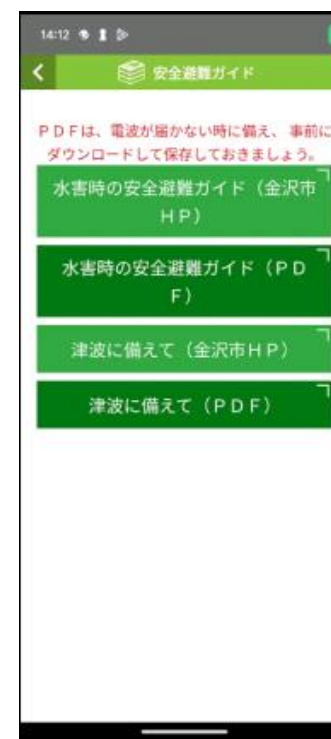
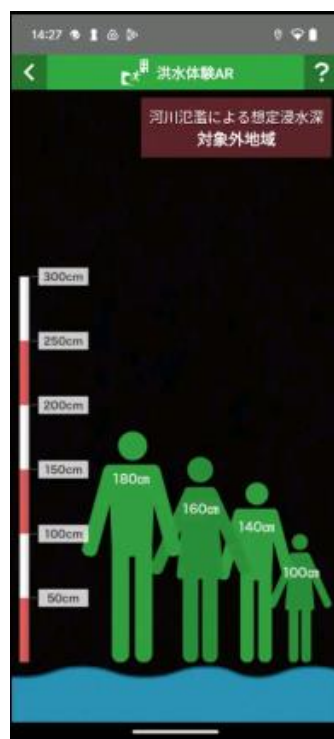
(3) 「結ネット」活用状況

令和3年、金沢市町会連合会と各校下（地区）町会連合会間での連絡ツールとして導入。このほか、42/62 町会連合会で導入され、活用されている（令和6年6月27日現在）。令和5年7月、これまでの優良事例を紹介する活用事例集を作成、公開した。

3. その他（かなざわ水害ハザードマップアプリ「にげまっし」）

水害への備えのため、スマートフォンのGPSを利用し、現在地の危険度や最寄りの避難場所、気象情報等をリアルタイムに確認できる無償アプリ。令和6年6月運用開始。

- ・洪水、内水、津波のハザードマップを搭載
- ・最寄りの避難場所情報を確認
- ・警報等気象情報を確認
- ・防災関連の便利なリンク集



令和6年度第1回 金沢シビックテック推進協議会 会議概要

日時：令和6年7月12日（金） 14:00～15:30

場所：金沢市役所第一本庁舎 第4委員会室

出席者：相羽 大輔 金沢市 PTA 協議会 会長

小俣 博司 オープン川崎 代表

茂 知一 一般社団法人石川県情報システム工業会 理事

福島 健一郎 一般社団法人コード・フォー・カナザワ 代表理事

松井 くにお 金沢工業大学工学部情報工学科 教授

眞鍋 知子 金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授

矢後 智子 NPO 法人ネットワークアシストたかおか 副理事長

山口 いづみ NPO 法人あかりプロジェクト 代表理事

平田 善雄 金沢市会計課長

（五十音順）

事務局 山下市民局長、山田市民協働推進課長、中川市民協働推進課長補佐、神田係長、富岡主事

1. 議案

議案第1号 令和5年度事業報告について

議案第2号 令和5年度決算（案）について

議案第3号 令和6年度事業計画（案）について

議案第4号 令和6年度予算（案）について

全会一致ですべて承認された

2. 報告

報告第1号 シビックテックミーティングカナザワの開催について

報告第2号 地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」の運用について

報告第3号 地域コミュニティにおける ICT 活用について

3.委員意見等

令和5年度事業報告及び決算について（議案第1号及び議案第2号）

【委員】

地域課題解決プロジェクト事業について、地震の影響でプロジェクトが中止になったというのは、具体的にどのような理由で中止になったのか。
また、そこに至るまでのニーズの状況はどうだったか。

【事務局】

地震の発生により、プライベートの生活や業務の対応に注力せざるを得なくなったことなどにより、自然消滅的に中止になってしまったものである。
内容としては、「よりそうなかま」というホームページで団体名と活動内容を紹介しているものの、「火曜日に対応している居場所を探したい」などといったニーズにはデータが対応していないという課題から検討が始まったものである。

【委員】

今年度再開の予定は今のところあるのか。

【事務局】

今年度事業の募集が始まったら、改めて再開の打診を行いたい。

【委員】

シビックテックスクール開催事業の講座に関して、どんなところに、どのような方法で告知を行い、どんな属性の方が参加されたのか。

【事務局】

さまざまな市民団体や公的機関にチラシを置いてもらったほか、SNSも最大限活用して告知を行った。
実際に参加された方は40代くらいの方が多かった。例えば小学校PTA活動で活用したい、市民団体活動の広報手段でGoogle siteを使ってホームページを作って広報したいといった、具体的に活動されている若めの方に参加いただいたという印象である。

令和 6 年度事業計画及び予算について（議案第 3 号及び議案第 4 号）

【委員】

地域課題解決プロジェクト事業について、昨年度に行わなかった対面の場合を設ける理由はなにか。

【事務局】

昨年度はマッチ箱の中で課題を出し、解決アイデアをみんなで考え、プロジェクト化ができればチームを結成して、という流れだったが、オンラインの場合だけでは具体的な活動につなげていくことが難しいということを実感した。

マッチ箱の長所でもあるが、気軽に投稿できる＝匿名性が高いという特性があり、その反面で直接的な連絡が取りづらい、どこの誰かが分からないという問題があるとともに、文章だけのやり取りだとどうしても細かいところが伝わりづらいことから、昨年度は具体的なマッチングに至った件数が少なかったと分析している。本年度はそれぞれ対面の場合、マッチングイベントを併用することで、どのような相乗効果が出せるかを試してみたいと考えている。

【委員】

シビックテックのようなオンライン上で可能なものに対面の場合が必要というのは逆説的だと感じた。

【会長】

シビックテック活動においてオンラインは強い武器で、最終的なやりとりやプロジェクト進行はオンラインで行っている。その一方で、プロジェクト組成、みんなが集まってチームを作るまでは対面での出会いや話し合いによってなされる場合が多い。リアルとオンラインの「いいとこどり」というのはシビックテック活動においては大事だと思っている。コロナ禍において人と会えない状態になったときにいろいろな事例があったが、コード・フォー・カナザワもいくつかのプロダクトは作れたものの、新しい人材を入れることは全くできなかった。

【委員】

本年度の事業は昨年度から継続するものが多いものの、スケジュールを見ると後半側に集中しているように見える。

【事務局】

本事業は実行委員会形式ということで、第 1 回会議を開催し予算案を承認いただいたうえで本格的に事業を開始している。

この第 1 回会議の開催時期を早められればよいが、議会や他の事業との兼ね合いもあり、この時期となった。

【委員】

事業をゼロから立ち上げるというなら時間はかかるが、この事業については今までの積み上げもあると思うので、もう少し早く着手して、結果をフィードバックしながら動かしていくということをそろそろ考えてもよいのではないかと思う。

【事務局】

例年２月頃に開催する第２回会議から翌年度の第１回会議まで空白の期間ができるため、次年度の継続事業の一部については市の予算が議決された前提で進めていくということもできるのではないかと考える。一度事務局で整理させていただきたい。

講座など学生が多く対象となる可能性があるものは夏休み時期以降で開催したいと考えているが、プロジェクト事業などの募集だけであれば予算はかからないため、先行して募集を行い、応募があったものを第１回会議で見いただくということではできないのではないかと思う。どの事業が先行して進められるかを次回会議までに検討させていただきたい。

【委員】

昨年度中断しているプロジェクト事業の「よりそうなかま」の課題について、ＰＴＡの視点から見たときに、その課題感と、今までにないくらい不登校が増えているという状況の中で、保護者や学校側は非常に大きな関心を持っており、現在公開されている「よりそうなかま」のサイトを見たときに、サイトで公開されている情報と、ＰＴＡ活動の中で見たい情報で差があるように感じる。市役所のいわゆる縦割りの中の部署違いというところもあって、私たちの目には入ってこない情報だったので、そのあたりを踏まえて、不登校が一番問題となっており、非常にニーズが高いということをお伝えいただき、ぜひ良い形でプロジェクトが進んでほしいと思い、支援をお願いしたい。

【事務局】

不登校というのはおっしゃるとおり社会問題化していると思う。協働のまちづくりチャレンジ事業でも不登校児や保護者を支援する事業が今年度採択されており、そういった団体とも連携しながら課題や支援について考えたい。

【委員】

もう一点、情報発信事業について、「大学生とＩＣＴに興味のある高校生」をターゲットにしたのはなぜか。

【事務局】

金沢は学生のまちということで非常に学生が多く、エンジニアを目指す学生も多くいる。昨年度、金沢工業大学のプロジェクトデザイン授業でも、シビックテックに興味を持つ学生たちから様々なご提案をいただいた。そのあたりのニーズを掘り起こして協力してもらいたいと考えている。

【委員】

シビックテック事業を推進するにあたり、全体的な課題感として、まずシビックテックの取り組み自体の認知度を上げることが課題なのか、地域課題を持っている方への認知度を上げることが課題なのか、情報発信のターゲットを決めるうえで一番優先度の高い課題はどこにあるのか。

【事務局】

これまで約 10 年、シビックテックの推進に取り組んできたが、認知度は少しずつ向上してきていると感じている。

先程の金沢工業大学のプロジェクトデザイン授業において、学生が「シビックテックという言葉を知っていますか」というアンケートを実施した結果、学生の中では 10 数%が知っているという結果も出ている。一方で、I C Tを活用して具体的に課題解決に取り組める方の数はまだ十分ではないと考えているので、そういった方々を意識しながら幅広くシビックテック活動に取り込んでいく必要があると考えている。

【委員】

私もバックグラウンドとしてはソフトウェアエンジニアなので、シビックテックの取り組みについては福島委員が始めた当初から知っており、この活動を外から見てきた立場である。なぜ高校生なのかという質問をしたのは、コロナ禍のタイミングで学校ではG I G Aスクール構想として、子供たちが1人1台Chromebookを持って授業を受けるようになった。それが始まった当時の子どもたちは卒業して高校生になっているし、小学校・中学校でも当たり前に使っており、中学校ではプログラミングの授業があるなど、若者世代のシビックテックという観点から見たときの解決力というのがどんどん上がってきている。加えて、来年から始まる「新金沢型学校教育モデル」においては、授業でデジタル化というのが入ってもっと増えてくるし、そうなってきたときに高校生や大学生をターゲットにしたのはちょうどよかった。

さらに、今から小中学校を対象に種まきをして、どんどん若者世代が当たり前のように自分が持っている技術力を使って、普通にボランティア活動をするような気分でやっていけるように、認知度を高めていくというのは作戦としてありだと感じているので、さらに若い世代にシビックテック活動を周知していく取り組みに力を入れていったほうがよいのではないかなと思う。

もう一つ、公民館の役員をしていて、ほかの高い年齢層の役員と話をしていると、その世代はこういう取り組みをすれば解決できるということを知らないと思う。もっと知ってもらうためには、もう少し対象を広げて、取っつきやすい形で年齢層の高い世代にも発信してくことも大事だと思うので、世代の上下に広げてわかりやすい形で周知していく必要があるのではないかなという気がする。

【委員】

マッチ箱の仕組みについて、毎年一定期間の中で募集をかけて、期間外には新たな課題が投稿されないような形で運用されているのか。

【事務局】

通年で投稿できるようにオープンにしている。一方で、課題解決プロジェクト事業として支援金を支給するにあたっては、募集期間の中で投稿された課題を基本的な対象と考えている。

【委員】

マッチ箱にこれまで投稿されてる事案というのはきちんとクロージングされているものなのか。

【事務局】

市民が市民同士で課題解決を行っていくということを目的としており、やりとりだけで解決できる場合もあるが、必ず解決まで向かうというわけではない。

【委員】

データ活用講座とシビックテックスクールの参加者が出会える場を考えてみてもよいのではないか。せっかく課題解決するツールを学んでいる人がいるのであれば、マッチ箱に課題投稿した人とのマッチングや連携があってもよいと思う。そういう偶然の出会いが大切だということもあるので、今回の事業でも考えてみるとよい。

来年度以降になるかもしれないが、例えば子供向けのフリースクールや子ども食堂の人たちとの情報交換など、そういうところから興味を持ってもらうという観点でやってみてもよいと思う。

【事務局】

我々も出会いの場は非常に大切だと感じており、本協議会事業はもちろん、市民協働推進課のほかの交流事業で紹介するなど、さまざまな人をつなげていくようなことができればよいと思う。

【委員】

私は川崎市と共同で、デジタルカフェ、小さな IT 相談室というものを始めて、参加してもらうというのはもちろん、それを紹介できる人の育成も始めた。中間支援できる人材を育てるというのもアイデアとしてよいのではないかと思う。

【委員】

マッチ箱の運営に関して、誰かがファシリテーションを行っているのか。

例えば、この課題はどのように進めたほうがよいとか、これはこういう人たちを参加してもらった解決できそうだから呼んでくるとか、出てきた課題を解決に向けてうまく進むためのサポートを行う役割というのはいるのか。

【事務局】

市としてはファシリテーターを用意することはできていないが、コード・フォー・カナザワのメンバーで、課題が投稿されたときにフォローアップしてくださる方はいる。

【委員】

補足すると、今コード・フォー・カナザワとして投稿の中身を見てサポートをしている。ただ、今おっしゃられたような突っ込んだファシリテーションというところまではしていない。例えば変な書き込みがないかのチェック、放置されている投稿へのフォロー、議論が足りない場合は今まで出ている課題についての投稿をするなどのレベルに留まっている。

コード・フォー・カナザワとしてマッチ箱よりも前のプロジェクトを作っていく過程では、こういう課題からこういう人をマッチしたほうがよいなど、コロナ禍以前はリアルでの交流が盛んだったのでそこまでやっていた。それがオンライン上のマッチ箱でしていくというのは大事かもしれない。

【委員】

個別の話になるが、学校からのお便りのペーパーレス化という話は、他からの要因、教育委員会で導入が決まったら解決されるのでクローズできるよう誘導してあげるなどができる。あとは、市内のIT系コミュニティの人はマッチ箱を見ていないので、そういう人たちにここにこのような情報があって、あなたたちで解決できそうだよと、情報をつなげてあげる役割があるとよい。詳しい人としてその知見で少しひと言言ってあげるだけ解決に進むこともあると思う。例えば運営側に自ら手を動かすわけではなく助言をするだけの人を作ることができたらよい。費用がかかるならば予算をつけてやってもよい。

例えば市内のほかの町会でこういう取り組みをしてこのように解決しましたという事例は、ほかの町会でも参考にできる。そのような成功事例、解決事例を情報として載せておくとよいのではないか。

【委員】

マッチ箱で解決された課題を集めるということか。

【委員】

マッチ箱だけでなく、もう少し広くシビックテックの取り組みの中での解決事例を集められるとよい。例えば、町会活動の中で解決できた事例など、目には触れないところでできた小さい事例でもよいので、そういうのを知ればもっと広がっていくように思う。

【委員】

先程から出ている協働のまちづくりチャレンジ事業でも課題を持った市民団体が出てきているが、これらの団体に向けたマッチ箱の周知は行っているのか。

【事務局】

マッチ箱の本格運用時にはこちらから周知させていただいた。

【委員】

協働のまちづくりチャレンジ事業の報告会やまちづくりHUBとマッチ箱をつなげる、具体的に Instagram のフォローをその場でしてもらうとか、マッチ箱やシビックテック事業とつながったらよい方々だと思うので、連携を進められるとよいと思う。

【事務局】

マッチ箱の交流会を今年度予定しており、市民協働推進課で実施する、地域活動に参加されている方や課題解決に興味を持っている方が集まるイベントと合同で開催したいと考えている。

【委員】

マッチ箱の目的としてプロジェクトチームを結成して解決するということももちろん大事だが、マッチングした事例や件数を事業評価として見せられるとよい。

【委員】

既に結ネットを導入している人が Google フォームを使おうと思う場合、どのような使われ方をするのか。

【事務局】

結ネットには出欠回答やアンケートの機能があるが、まだ簡易的で Google フォームほどの拡張性や自由度はない。そのため、Google フォームで作成した回答フォームのリンクを結ネットに載せる使い方をしているところもある。また、全町民で利用される場合もあれば、役員間のみで利用される場合もあり、結ネットユーザー以外の方へ回答を求めたい場合には Google フォームを活用してもらっている。

【委員】

同じ町会でも結ネットを使っている人と使っていない人がいるのか。

【事務局】

スマートフォンを持っていない方や使い方がわからない、使いたくないという人がおり、校下や町会全体で導入が進んでいるところでも 100%ではないケースが多い。

【委員】

結ネットは有料のサービスだと思うが、誰が利用料金を支払っているのか。

【事務局】

各町会連合会または単位町会で直接契約して費用を支払っており、そこに対して市から補助金を交付している。

【委員】

住民の方が負担しているわけではないということか。

【事務局】

町会連合会または町会で負担している。導入により町会費を増額したという話は今のところ聞いていない。

【委員】

情報共有として、こういうサービスを利用する際によく困るのはメールアドレスの管理。例えば Google のサービスを使う際に、個人アカウントで Google ドライブにアップロードすると、そのファイルがメールアドレスに紐づいたりして、権限設定や情報の管理が難しくなったりする。そこで、町会レベルなら、自治体でドメインを一つ作って、町会単位でメールアドレスを振り出してあげると、町会長が変わった場合にも困らない。そういった公的なドメインサービスのようなものがあるとアカウント管理がしやすくなるので参考にしてほしい。

【委員】

マッチ箱を見ると投稿された課題の数があまりにも少ない。プロジェクトデザインの研究を指導している立場からすると、プロジェクトデザインは課題を発見するところが非常に難しい。課題というのはいろいろなディスカッションや調査を経て、初めて問題点や解決すべき点が見つかる。その課題を見つける過程を導くものがあればよいと思う。今は課題ありきでその解決策を考えるとところをマッチ箱でやりましようと言っているが、そこありきでやってしまおうと出てくる課題も少なくなってしまう。もう少しディスカッションしながら課題を見つけるサポートをするということを考えてみるとよい。

【事務局】

市民協働推進課ではいろいろな団体がマッチングする場があるので、いきなりマッチ箱に投稿してというわけではない形を取ってもよいと思う。3回の交流会を設ける中で、一般の方が集まる場にシビックテック関係者に少し入っていただいて、地域課題そのものを引っ張り出す作業が必要だと感じた。マッチ箱に投稿してもらった際にも、シビックテックの知識のある方がファシリテーターのような形で入って課題を整理してもらえれば、コメントする方もコメントしやすくなると思う。どちらかというとマッチ箱で拾い上げるというよりは、その前処理も含めて課題をどう拾うかというところを、交流会にシビックテックの技術を持つ方に参加してもらおうという形で今年度進めてみたい。

もう一つ、先程も話に出たように成功事例が少ないので、課題を持つ人もマッチ箱に投稿してよいのかわからないのではないかなと思う。小さな事例でもよいので少しでも成功事例を増やして載せていくことが今後重要になる。そうすると小さなつぶやきが課題へとつながってくると思うので、今回いただいた意見を踏まえて交流会をどのような形で展開していくかを検討させていただきたい。

【委員】

オフラインとオンライン両方のファシリテーター、それがひとつの課題をどう発見していくか、どう拾い上げるかが、今後のキーになってくる。

【委員】

コード・フォー・カナザワでもコロナ禍の前に「シビックテックナイト」と題して、月に1回、ITビジネスプラザ武蔵で、課題がある人や課題を解決したい人に自由に集まってもらうイベントをやっていた。毎回初めての方も来られる場で出されるのは「ふわっとした課題」で、シビックテックをやっている人や関心のある人が「あでもないこうでもない」という議論を経て、どんどん精緻化してプロジェクトになっていった。それをオンラインのマッチ箱でやろうとしたときに、「ふわっとした課題」を書くと、余りにも大きい話すぎてどう答えるか分からず、あまりコメントが付かない。そういう意味でも、オンラインのマッチ箱で「ふわっとしたもの」を突き詰めてやっていくというのは難しい。リアル場で突き詰められた課題がマッチ箱に入ってくるとか、反対にマッチ箱に投稿された「ふわっとした課題」をリアルで議論するとか、併用することが大事だと感じている。

【委員】

そもそも「シビックテック」というキーワードの敷居が高く、カジュアルに課題を言語化するところが難しく、それがマッチ箱に投稿するハードルになっている。

例えば、結ネットの導入、公民館の役員が見つからない、公民館のWi-Fiの通信が遅い、会議室の空き状況がオンラインで分からないなど、いろいろな不満に思うことが実際にはたくさんある。一方で、どうしてもマッチ箱で解決できる課題は「言語化できること」と「テックで解決できること」が条件になっていると思われている気がしている。そうではなくて、結ネットを導入するだけ、Google フォームやLINE を使うだけで解決するようなもの話題にしていいよというような、「ふわっとした課題」も含めてカジュアルに投稿できるような雰囲気づくりが大事となる。

先程の協働のまちづくりチャレンジ事業とかに出てくるような方は意識が高く関心を持って普段過ごされているが、そうではなくて一般の誰しものが不満に思うようなことをデジタルで解決できるかもという感覚を持ってもらえるように、ちょっとした小さな課題でも取り組めるかもというものがあれば利用者も増えてくるかと思うので、そのあたりのカジュアルさを上げていくということがこれからのステージで大切になってくると思う。